

令和4年度第5回はだの生涯学習講座  
秦野葉たばこの歴史  
～秦野市発展の礎とは～

令和4年9月24日（土）

たばこと塩の博物館

主任学芸員 鎮目良文

# たばこと塩の博物館について

**開館 1978年11月3日**

(たばこ製造専売70周年記念事業の一つ)

## 設立理念

いつの時代にも人々の生活に密着し、深く根を下ろした、たばこと塩の歴史をたずね、その民族史、産業史を過去、現在、そして未来へと発展させつつ継承していくこと

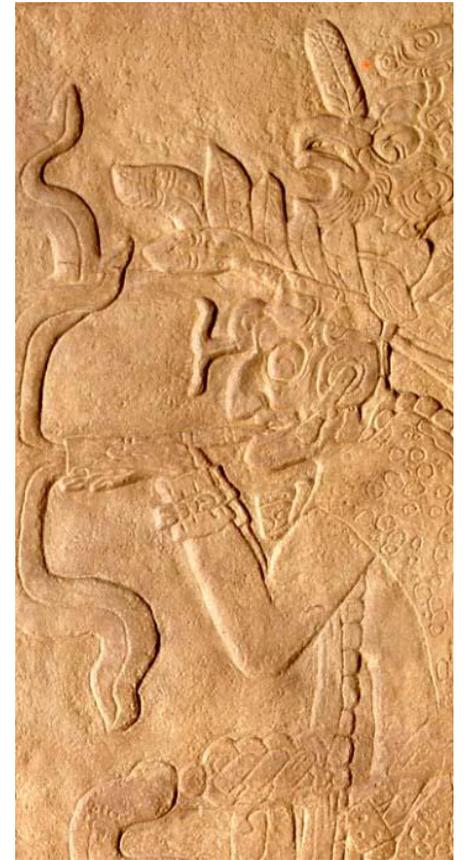
**▶たばこと塩に関する歴史と文化の啓蒙と普及を図る文化センターとしての機能を重視**



# たばこは神々の草だった



メキシコのマヤ神殿遺跡 パレンケ



たばこを吸う神の  
浮き彫り

# たばこはナスの仲間



ニコチアナ・タバカム



ニコチアナ・ルスティカ

たばこ属としては現在64種類。現在栽培種としてある2種類の祖先種はアンデスの山脈から。

# たばこは儀式に使われた



メキシコ西部、ミチョアカン地方の裁判（15世紀末）

# コロンブス以降、たばこはヨーロッパへ



- 1492年、西インド諸島に到達したコロンブス一行は、一つの島に上陸しました。彼等は、先住民にガラス玉などを贈り、その返礼として、果物などとともに、「香り高い乾燥した葉（たばこ）」を贈られました。

コロンブスとたばこの出会い（想像図）

# ヨーロッパそして世界へ



# 日本へのたばこの伝来 16世紀末



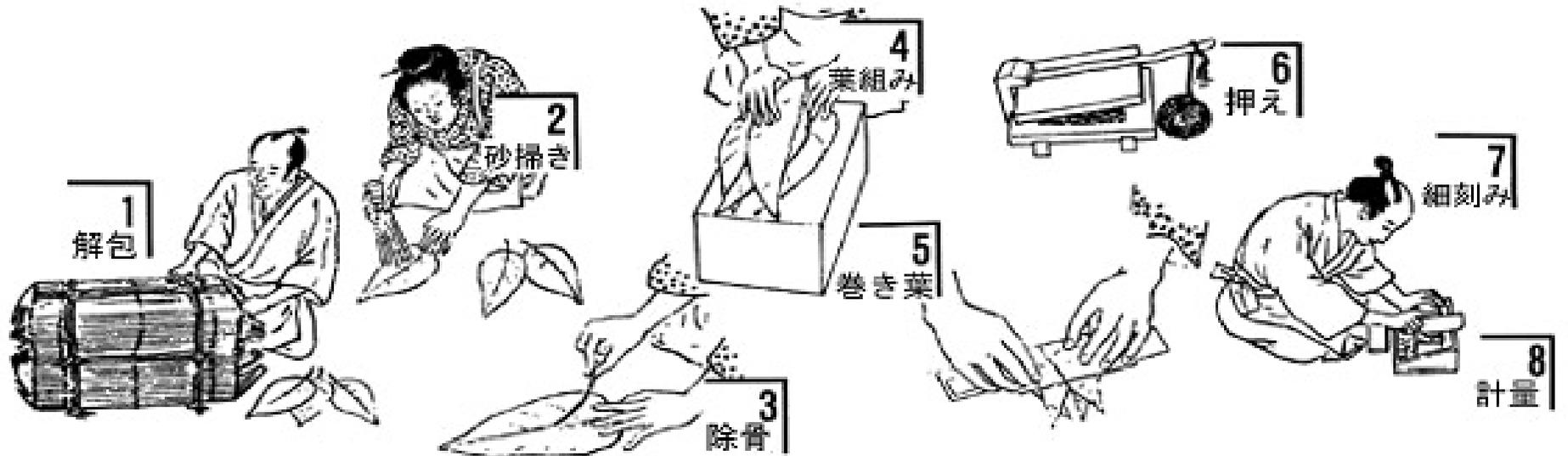
南蛮船（模型）全船長30mやや小型の  
スペインのガレオン船



風俗画に描かれた南蛮人の喫煙風景「観能  
図」（部分）神戸市立博物館蔵

# 日本独自のたばこ文化

## 細刻みたばこを煙管（きせる）で吸う





たばこの味くらべ 『国分煙草七種の評并讃』より 天保3年（1832）

- \* 葉たばこは、藍・桑などととともに山間部「でも」育つ植物
- \* 江戸時代には農家にとって貴重な財源として重宝される
- \* 当然栽培される地域によって「味・風味」が異なる。

# 喫煙具も日本独特の形に



毛利家伝来といわれる舟形たばこ盆



彫金が粋なきせる



オランダ渡りの革で作られた  
たばこ入れ

# 江戸庶民の娯楽、憩いとして



- \* 「いっぷく」という言葉  
(さんべん回ってたばこにしよう)
- \* 江戸時代には大衆化が進む。

# 紙巻きたばこの登場と普及



岩谷松平と村井吉兵衛

# 19～20世紀のたばこ

## 紙巻たばこの普及とグローバル化

形態が**全世界共通フォーマット**、商品差が少ない

\* 機械化・産業化・大衆化 = 寡占化

\* アメリカ企業とイギリス企業の競争

→ **BATの発足 = 多国籍企業**

\* **自由経済か産業保護か**

→ 日本は専売制を導入

# 秦野たばこの起源

## ・大蔵省専売局の調査では、慶長年間（1596-1615）

小田原城主 大久保忠隣の命を受け、分家の大久保彦左衛門が薩摩から取り寄せたとするもの。（「秦野たばこ史」（昭和53）など）

→ただし、資料的な裏付けなし。

\*現在のところ、秦野地域でたばこ栽培を示す最も古い資料は寛文6年（1666）で、年貢として50斤上納されたことを示すものがある。（「秦野市史 たばこ編」昭和59年）

\*日本における、たばこ栽培としては、比較的古くからあることがわかるものの、秦野地方でのたばこ栽培が産業として発展していくのは天保期（幕末）以降とされる。

# 秦野たばこの発展

## ・宝永4年（1704）の富士の大噴火で秦野地域が甚大な被害

→田畑に火山灰がつもる。

\* たばこは火山灰の混じった土地でも耕作可能（薩摩など）

→秦野でのたばこ耕作が盛んとなる。

= 農村経済の立て直しに一役



# 秦野たばこの隆盛

## ・天保期（1831-1845）＝江戸末期には銘葉産地としての基礎を確立

「波多野庄村の産を波多野煙草と称し佳品なり。足柄上郡松田辺の産をも波多野煙草の佳称を負せり」（天保12年「新編相模風土記」）

＊波多野庄村以外の周辺のたばこも秦野葉たばこの名称をつけて販売

・横浜開港以降、外国人にも評判となる

「安政年間横浜開港以来内外貿易ノ道大ニ開ケ外人ノ輻輳スルモノ孰レモ秦野煙草ノ善良ナルヲ賞翫スルニ至リ」（「全国煙草一覽」）

## 秦野たばこの評価（専売以前）

- 天保12年 波多野煙草は佳品である（新編相模風土記）
- 安政6年 横浜開港以来、外国人に好評を博す
- 明治5年 「煙草一覽」で2等品に分類
- 明治15年 東京での農産物共進会で、13出品中10点が賞をうける
- 明治36年 第5回内国勸業博覧会 秦野葉の評価  
「（薩摩、水戸に比し）其優劣を争うふに足んか」

# 秦野たばこの評価（専売後）

第6-1表 葉たばこ種類別の賠償価格最高等級表

収納所	種 類	適 用 年														
		明治 36 ~ 38	明治 39	明治 40	明治 41	明治 42 ~ 43	明治 44	大正 元	大正 2 ~ 4	大正 5	大正 6 (7月 1日 施行)	大正 6 (9月 1日 施行)	大正 7 (7月 1日 施行)	大正 7 (9月 9日 施行)	大正 8 (7月 1日 施行)	大正 8 (8月 1日 施行)
秦 野	秦野	5	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	優乙	優乙	5	4
	〃 (幹)	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	優丙	優甲	優甲	4	3
	富士	9	5	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	〃 (幹)	8	4	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東 京	桐ヶ作	9	5	4	4	4	4	7	7	7	7	6	4	2	10	10
	三浦	10	6	6	6	6	6	9	9	9	9	8	6	4	12	12
	連華	9	5	5	5	5	5	8	8	8	8	7	5	3	11	11
	沼田	11	7	7	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水 戸、 茂 木	龍王	9	5	4	4	4	4	7	7	7	—	—	—	—	—	—
	水府〔国分〕	8	4	4	4	4	4	6	5	5	—	—	—	—	—	—
	〃 (幹)	1	優	優	優	優	優	優乙	優甲	優甲	優甲	特乙	特甲	特甲	優	特
	達磨	9	5	5	5	5	5	7	7	7	7	6	4	2	10	10
〃 (幹)	5	3	2	2	2	2	3	3	3	3	2	優丙	優丙	6	6	

(注) 1. この最高等級の公定制は大正9年より廃止された。本表中の〔 〕内は旧称、( )内は乾燥区分を示し、記入のない種類は連干である。収納所名は明治40年当時の所轄である。

2. たばこ専売史第一巻による。

鹿児島、水戸に次ぐ評価を受ける

# 秦野たばこの評価（専売期）

- ・ 刻みたばこ、口付たばこの原料としては1級品  
皇室献上用たばこ用の原料となる。

表 2—9 明治天皇御料口付紙巻煙草の葉組（明治37年12月第8813号達）

一寸巻

用途区分	巻	肌	肌次	中割	留前	留
種類	国分	出水	国府	出水	秦野	国分
乾燥	幹	幹	幹	幹	連	幹
葉分	中葉	中葉	中葉	中葉	中葉	中葉
等級	優〜二	優〜二	優〜二	優〜二	三〜五	優

七、六分巻

用途区分	巻	肌	肌次	中割	留前	留
種類	秦野	国府	国分	国府	秦野	国分
乾燥	連	幹	幹	幹	連	幹
葉分	中葉	中葉	中葉	中葉	中葉	中葉
等級	二〜五	優〜二	優〜二	優〜二	三〜五	優〜二

# 秦野たばこの特徴

「色沢良好、喫味緩和ナルニ依リ他種トノ配合ニ適シ特ニ製品ノ見栄ヲ良クシ膨嵩性ニ富ム八本種ノ長所ニシテ用途ヒ広シ」（専売局「内国産葉煙草解説書」大正12年）

\* 銘葉となった理由には  
秦野地域で開発・発展した栽培法と乾燥法があった。

= 秦野式揚床法・幹干法

\* 全国のたばこ耕作の模範  
= 専売の大拠点となる基礎

\* 耕作人を全国に派遣

秦野葉



# 耕作技術の秦野を支えた人物



## ・草山貞胤（1823年-1905年）

御嶽神社の神主。36歳で神主職を継いだ頃からたばこ栽培にも関心を持ち、耕作しながら研究改良に努める。

苗床の改良や正条密植法、木枯らし法〈幹干し〉による乾燥方法、水車によるたばこ刻み器などを発案。

耕作者に伝授し、秦野たばこの評価を高めさせた。

# 耕作技術の秦野を支えた人物



## ・ 関野作次郎（1859年-1935年）

名古屋（ながぬき）村に生まれ。

家業の農業を継ぎ、当時たばこ栽培の先覚者であった草山貞胤に師事。

1899年<明治32>に秦野煙草試験地（たばこ試験場）に勤務し、たばこ栽培法の研究に専念する。秦野式改良揚床を全国に普及。「たばこ種子精選器」「たばこ種子天播器（てんばき）」を考案するなど、秦野の耕作技術向上に大きな功績を残した。

# 耕作技術の秦野



# 耕作技術の秦野

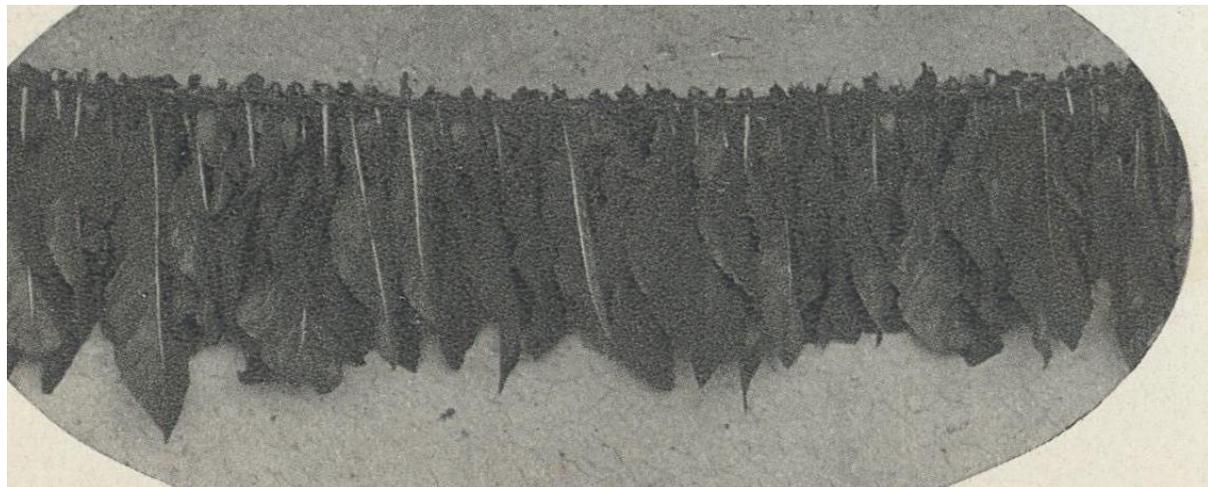


# 耕作技術の秦野



種子天播器 (てんばき)

# 耕作技術の秦野



連干

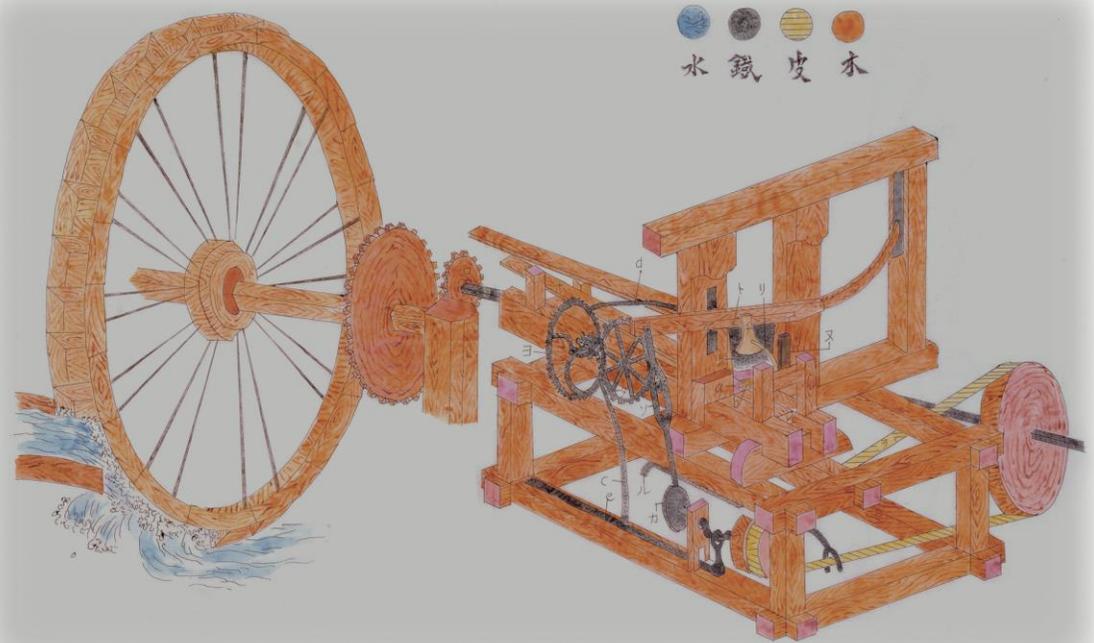


幹干

# 製造たばこの生産

## 明治20年代に急速に発展

\* 明治30年の『神奈川県勧業年報』によれば、県内36業者（たばこ工場）の64%が秦野地域に



\* 水車刻みの開発 草山貞胤

# 製造たばこの生産



# 専売制度の導入と秦野

**明治以降、たばこは近代国家作りの元となる「税」の対象になる。究極の徴税法＝専売制を選択**

明治31年(1898) 葉煙草専売法実施

明治37年(1904) 煙草専売法実施

→専売制のもと、耕作にも効率化が求められる

**耕作法の指示・品種の改廃・作付制限**

たばこについては、政府主導によって、茨城・栃木・群馬・福島・岡山・徳島やまたは銘葉として名高い**秦野**・鹿児島が中心となる

# 専売制度の導入と秦野

## ・ 秦野地域に作られた専売の拠点

明治31年 秦野葉煙草専売所（入船 鴨居屋敷一帯）

明治32年 農商務省農事試験場付属秦野煙草試験地設置  
（秦野市水神町）→明治37年に大蔵省に移管、  
大蔵省専売局付属煙草試験場に

明治38年 秦野葉煙草専売所内に秦野煙草製造所設置。

\* 専売制施行後、秦野地域のたばこ製造業者には転業補償＝木綿、機屋、醤油業者などへ。秦野の発展に寄与

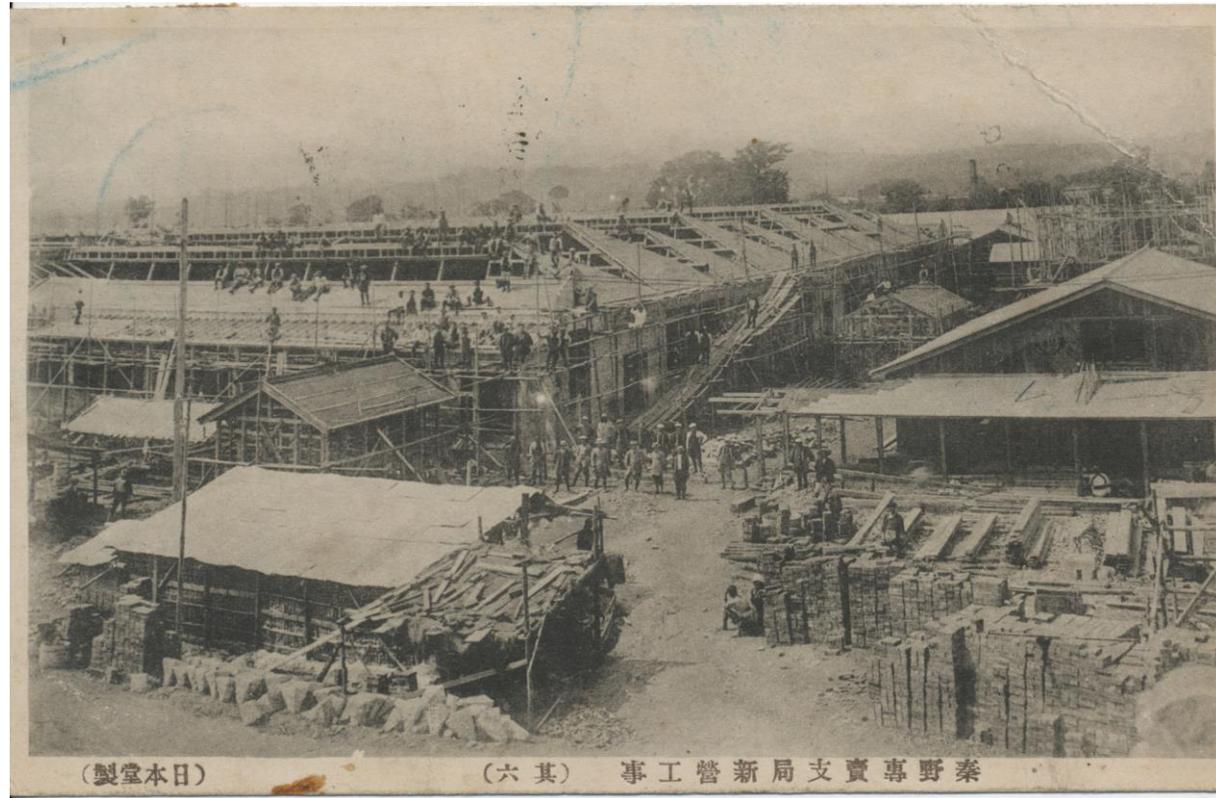
# 秦野におけるたばこ製造工場の歴史

## 秦野煙草製造所

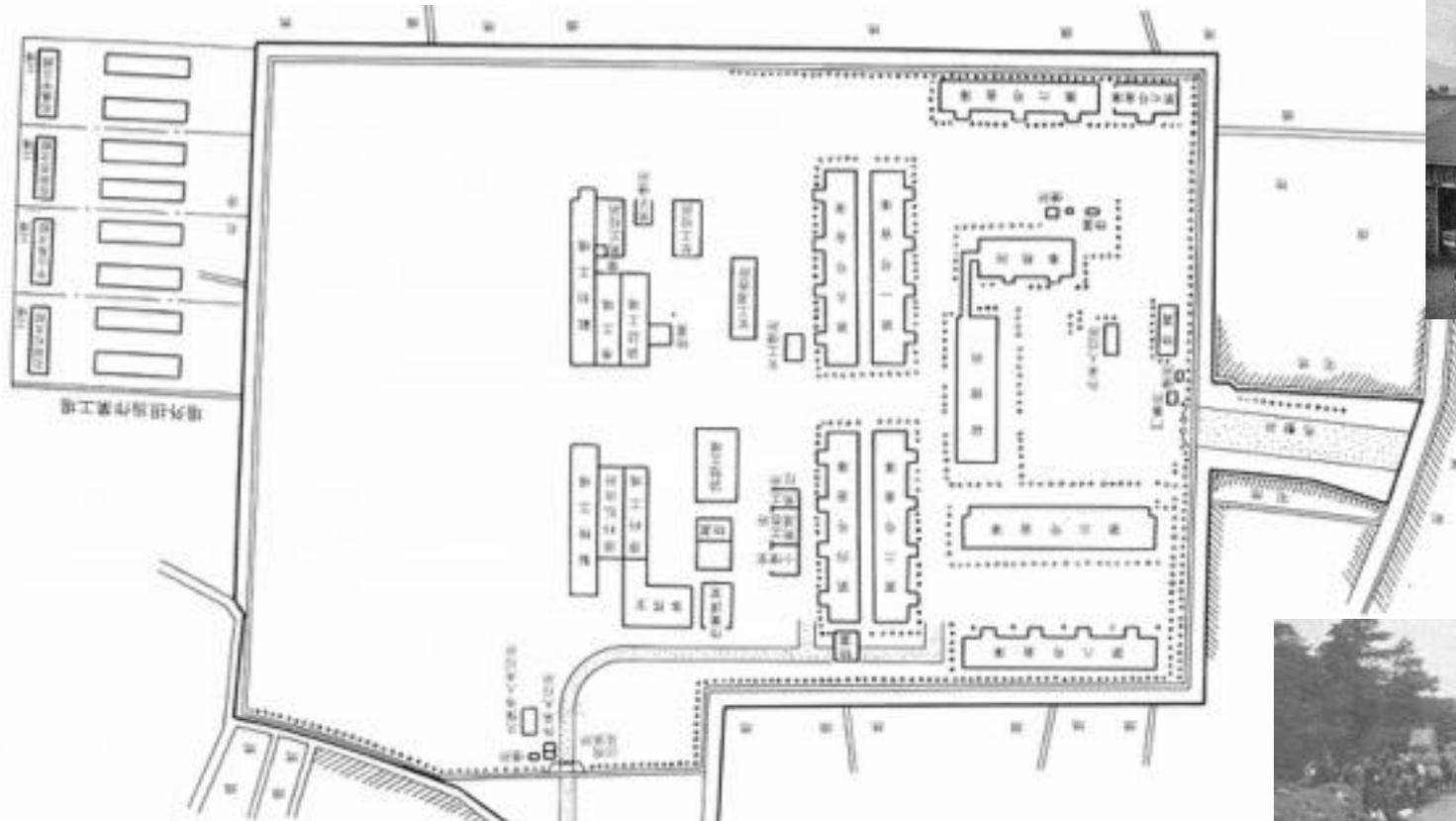
大正6年 新工場建築、専売局で初めての除塵装置設備の鉄筋平家建、鍵屋根の工場が竣工

大正8年完成

→関東大震災、戦争を経て昭和34年まで刻みたばこ製造の拠点として発展。



# 秦野におけるたばこ製造工場の歴史



# 秦野におけるたばこ製造工場の歴史



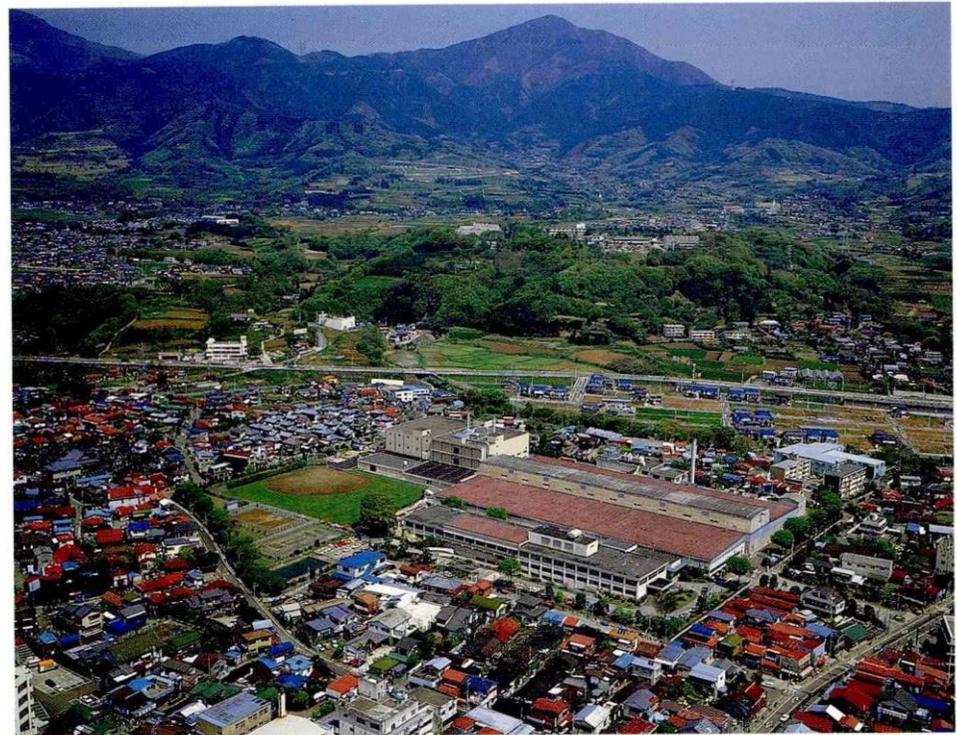
# 秦野におけるたばこ製造工場の歴史

## ・昭和39年 新工場建設（昭和40年創業）

当時最先端の機械を導入。「ハイライト」などを製造。

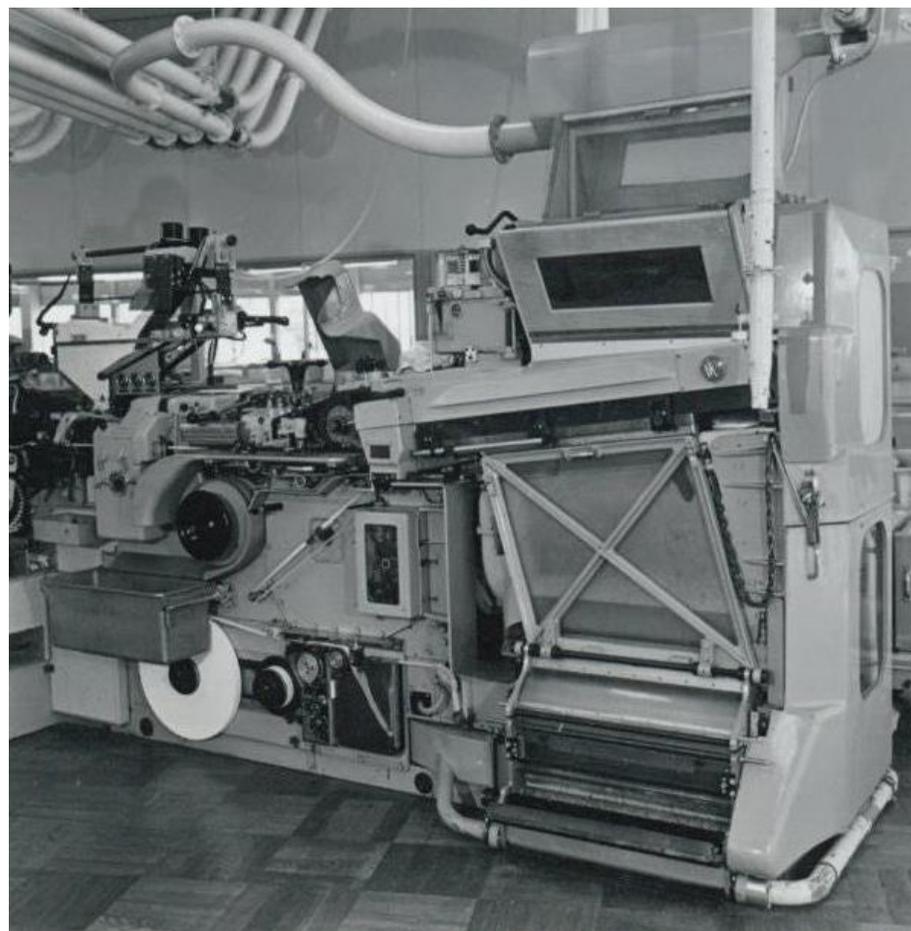
→昭和63年、小田原工場との統合による閉場まで日本専売公社・JTを支える工場としてあり続ける。

\*いずれの時代も最新鋭工場



秦野工場 秦野市入船町12の1

# 秦野におけるたばこ製造工場の歴史



# 秦野におけるたばこ耕作の歴史

- 明治時代 秦野支局直轄区域の16カ町村における総戸数の70%以上が葉たばこ農家
- 大正時代 明治期に続いて最盛期 耕作面積は1785町歩を記録、北秦野村では全戸数の内94%が葉たばこ農家
- \* 葉たばこ研究所も相まって優良耕作人を指導者として全国に派遣
- 昭和時代 刻みたばこの需要減少・紙巻たばこ需要拡大  
→刻みたばこの原料としての銘葉・秦野葉から黄色種（米国葉）への転換を求められる。

# 秦野におけるたばこ耕作の終焉

## ・秦野市における産業構造の変化

昭和31年2月「秦野市工場設置 等奨励に関する条例」

→企業の工場進出を促す 消費地近郊農業からの脱皮

## ・高度経済成長以降、首都圏のベッドタウンへ

→たばこに限らず、専業農家の減少

\* 少子高齢化、たばこ工場の郊外化、たばこ産地集約などを経て、たばこ農家は減少。

昭和47年 秦野たばこ試験場は機能転換（生物実験センター、安全性研究所へ【令和元年まで】）

昭和50年秦野葉は廃作、昭和59年には黄色種の栽培も終焉

# 秦野に残るたばこの記憶

- たばこ乾燥小屋



# 秦野に残るたばこの記憶

## ・たばこ祭り

昭和23年、神奈川県煙草耕作組合連合会創立25周年の  
記念事業の一つ、耕作者慰安会としてス  
タート

戦後復興の意味合いも

昭和24年 たばこ娘コンテスト

昭和25年 秦野煙草音頭

\* 回を重ねていく中で  
秦野市民のお祭りに



# 秦野に残るたばこの記憶

- ・ **たばこ煎餅（亀本）**

明治32年、秦野煙草試験場開設を記念して発売開始

- ・ 出雲神社相模分詞

**草山貞胤翁記念碑（御岳神社宮司）**

= 江戸から明治にかけて

秦野のたばこ耕作発展に寄与

- ・ 妙法寺境内社

**白玉鴨居稻荷神社**



# 秦野に残るたばこの記憶

- 秦野煙草音頭 小島喜一 作詞 / 中山晋平 作曲

1. うぶなみどりに なさけの露が  
れていとしや エーなんとしよ煙草苗  
「ソレ」秦野葉たばこ 畑つくり  
ハーみてくれ秦野のはたらき手

5. 干した煙草は ぬらしちゃならぬ  
から エーなんとしよ雲が出る  
「ソレ」秦野葉たばこ 畑つくり  
ハーみてくれ秦野のはたらき手

# 秦野に残るたばこの記憶

- 秦野煙草音頭 小島喜一 作詞 / 中山晋平 作曲

7. のしてたばねて いつしか更けて  
（かり）のなく夜の エーなんとしよお月さま  
「ソレ」秦野葉たばこ 畑つくり  
ハーみてくれ秦野のはたらき手

8. 煙草おさめの うれしい晩は  
まゝよほろ酔い エーなんとしよ肘まくら  
「ソレ」秦野葉たばこ 畑つくり  
ハーみてくれ秦野のはたらき手

# 地域共有の記憶を今に残す

**過疎化、高齢化社会が大きな課題となった日本**

- 「街（人）と物」がもつ歴史・文化の活用  
= 「時間、空間、仲間 = 三間」の提供
- 「祝祭」の重要性  
= 「日常」と「非日常」の区別・意識
- 様々な価値観を持った人々の受け入れ  
= 地力（地元の力）、自身の新たな魅力の発見

# 地域特性と「三間」

古民家・空き家の利用＝空間

地域おこし協力隊の利用＝時間

町に詳しい人の提供＝仲間



住む場所・作る場所・売る場所の提供

＝「間」の提供

まちがもつ歴史（「もの」と「こと」）の活用